



*** あむあむたまごポンポン Q&A ***

- Q.うまく編めない。**
A.1ページめの「◆毛糸をセットしましょう◆」をよく読んでからはじめてください。
- Q.目が飛んでしまいます。**
A.毛糸を引っ張らないように、テンションにかけてから、一定の速度でハンドルをまわし、毛糸の状態を確認しながら編んでください。輪あみの場合は、ハンドルを逆まわしにしないでください。
- Q.毛糸がテンションや針の中にかかってしまいシンダーがまわらなくなりました。**
A.セット内容の毛糸針で編み目をゆるめてはってください。毛糸は十分ほぐし、からまらないように注意して編んでください。
- Q.毛糸玉を編む前にほぐさないで、そのまま編んでしまいハンドルをまわしたらカチカチと音がした。**
A.毛糸がテンションに引っかかり安全装置がはたらきカチカチと音がします。毛糸をほぐしましょう(→P1)を読んでから編みはじめてください。
- Q.毛糸の結び目がテンションに引っかかってしまった。**
A.結び目は小さくし、糸分な毛糸は切ってください。2ページの「◆毛糸がなくなりそうになったら、色をかえたいときは◆」をよく読んでください。
- Q.耐風の毛糸以外で編めますか？**
A.耐風の毛糸に近い並太を使用してください。
- Q.あみぐるみ以外のものはできますか？**
A.できません。いろいろアレンジしてください。

シンダーが止まりハンドルだけがまわっている状態

こんなとき**安全装置**がはたらきカチカチと音がします。

- きりかえダイヤルを平あみ(H)に合わせ、ハンドルをまわし、止まってもまわし続けたとき。
- 並太毛糸より太い毛糸などを使って、きつくなってハンドルをまわし続けたとき。

家庭用品品質表示法に基づく表示

毛糸:アクリル系100% 表示者:株式会社タカラトミー 0570-041031

タカラトミーでは、「子どもたちに安全で楽しいおもちゃと遊具を産第一に考えており、そのため、常に製品に対し研究、改良を行っており、お買い上げ時期によって同一製品の中にも多少異なるものや、パッケージの写真やイラストなどと異なる場合がございます。製品につきましては、万全の注意をはらって製造に当たっておりますが、万一お客様の都合がございましたら下記までご連絡ください。

タカラトミー お客様相談室 03-5650-1031

F124-8511 東京都葛飾区立石 7-9-10
製品や修理については下記お客様相談室までお問合せください
電話受付時間 月曜日から金曜日(祝日・祭日を除く)10~17時
PHS、IP電話等からのお問合せは03-5650-1031

0570-041031 タカラトミーサポート 検索

<http://www.takaratomy.co.jp/support/index.html>

株式会社 タカラトミー TOMY

●たいのタカラトミーの情報はインターネットで <http://www.takaratomy.co.jp>



あむあむたまごポンポン

**とあつかせつめいしよ
取り扱い説明書**

**とあつかせつめいしよ
取り扱い説明書 & あみぐるみなどのつくり方**

この度は、タカラトミー「あむあむたまごポンポン」をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。
ご使用前に、この取り扱い説明書(本書)をよくお読みください。
また、読み終わった後は必ず保管しておいてください。 © Disney



TAKARA TOMY

編める毛糸の種類は並太毛糸

対象年齢 6才以上

保護者の方とお読みください

乾電池は使用しません。 NO BATTERIES REQUIRED.

※イラストと写真は実際の商品と多少異なる場合があります。※写真にありますあみぐるみ用の綿とあみぐるみマスコット以外の毛糸とフェルトはセット内容に含まれておりませんのでご了承ください。

警告(けいこく)

保護者の方へ必ずお読みください。

- 小部品があります。誤飲・窒息の危険がありますので、3才未満のお子様には絶対に与えないでください。
- 毛糸針は、機能上、尖っていますので危険です。
- 毛糸は火に近づけないでください。

注意(ちゅうい)

- 毛糸を首にかけてふざけたり、乱暴に遊ばないでください。窒息などの危険があります。●毛糸による事故の危険がありますので、3才未満のお子様には絶対に与えないでください。●毛糸を指などに巻きつけないでください。血が通わなくなり、危険です。●毛糸を編んでいる途中、シンダー内のベラやフック等に指や髪、毛や衣服などをはさまれないように注意してください。●プラスチック袋を頭から被ったり、顔を被ったりしないでください。窒息する恐れがあります。●思わぬ事故の恐れがありますので、使用後は3才未満のお子様の手の届かないところに保管してください。

<使用上のお願ひ> ○ご使用前に、取り扱い説明書(本書)をよくお読みください。また読み終わった後は必ず保管しておいてください。○性質上、毛が抜けやすいため誤って飲み込まないよう注意してください。○はさみを使うときは十分注意してください。○プラスチック袋は梱包材ですので開封後はすぐに捨ててください。

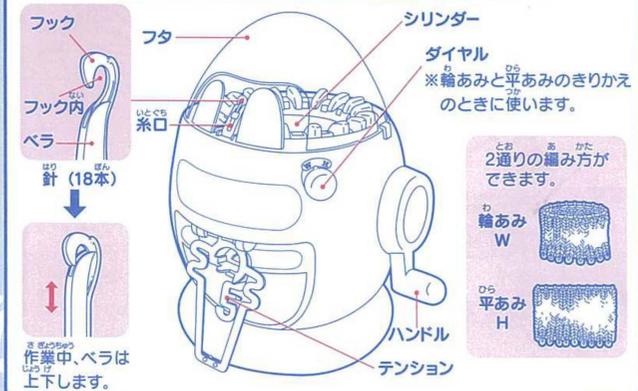
目次

- 編みはじめる前の準備……………P1
- 輪あみの編み方……………P2
- 編み終わったら……………P2
- 輪あみの編み終わり……………P3
- 編みはじめるしまつの仕方……………P4
- 平あみの編み方……………P4
- 平あみの編み終わり……………P5
- 編みはじめるしまつの仕方……………P5
- ポンポンのつくり方……………P6
- オラフのあみぐるみマスコットのつくり方……………P7
- みつあみマフラーのつくり方……………P11
- アームウォーマーのつくり方……………P13
- まほうのステッキのつくり方……………P14

◆セット内容◆

- 本体……………1コ
- テンション……………1コ
- ポンポン糸巻……………1コ
- 毛糸ガイド……………1コ
- 毛糸針……………1本
- 毛糸(オレンジ、白)……………各1コ
- 綿……………1コ
- フェルト(茶、水色、黒、白)……………各1枚
- 取り扱い説明書(本書)……………1冊

◆あむあむたまごポンポンの各部の名前◆



フタのはずし方

フタを左(反時計回り)にまわし、もちあげてはずします。(セットするときは逆の手順で行ってください。)

テンションのつけ方

図のようにテンションの凸部を本体の穴に片ずつさしこんでください。

＊ 編みはじめる前の準備 ＊

※セット内容の毛糸は「オラフのおみぐるみマスク」をつくるためのものです。練習用はお家にある毛糸で行いましょう。

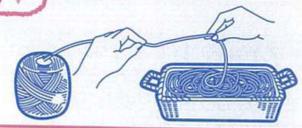
◆ 輪あみ ◆

本体を平らなテーブルなどの上におき、ダイヤルを輪あみ(W)に合わせます。



◆ 毛糸をほぐしましょう ◆

毛糸は毛糸玉の中心から、かごやあき箱などに、ほぐして入れましょう。



◆ 油性ペンで印をつけよう! ◆

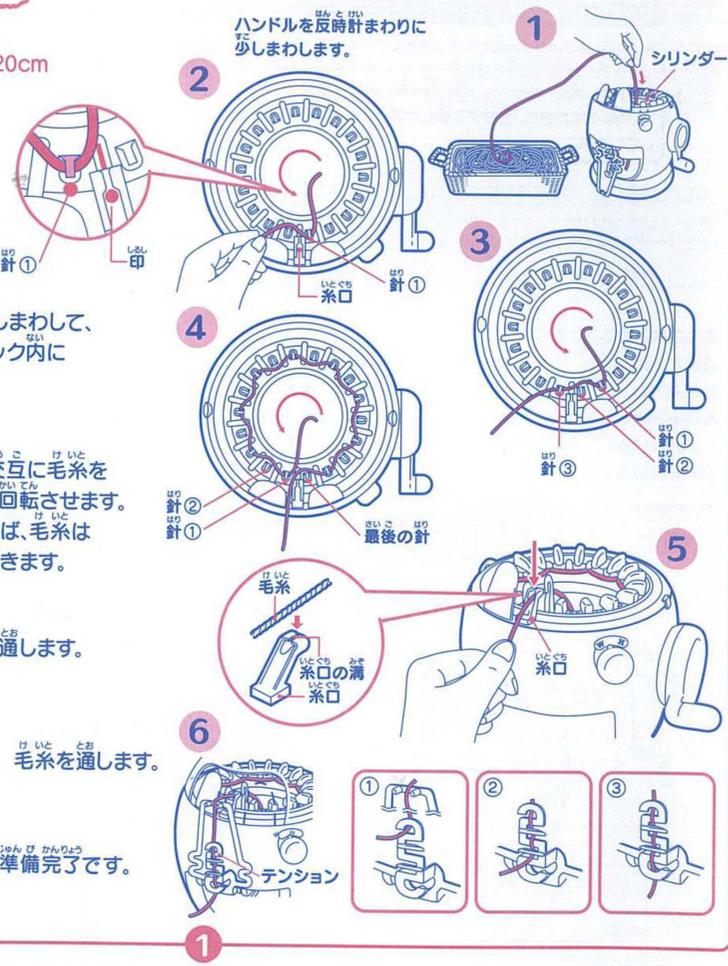
- ①ダイヤルを平あみ(H)に合わせます。
- ②ハンドルを左(反時計まわり)に止まるまでまわします。
- ③止まった位置に油性ペンで印をつけます。
- ④ダイヤルを輪あみ(W)に合わせます。



※遊んでいる途中で失敗したら、はさみで毛糸を切らずに本体からはずして編み終わりをほどこしましょう。

◆ 毛糸をセットしましょう ◆

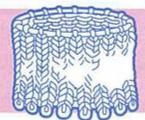
- 1 毛糸の先を図のように、約20cmくらい中へたらしめます。
- 2 針に毛糸をかけます。糸口の右側にある針①のフック内にかかけます。
- 3 ハンドルを時計まわりに少しまわして、針②には通さず、針③のフック内に毛糸を通します。
- 4 このように針の前、後ろと交互に毛糸をかけてゆき、シンダーを1回転させます。正しく毛糸がかかっている場合は、毛糸は最後の針の後ろを通っていきます。
- 5 糸口の溝に、上から毛糸を通します。
- 6 テンションを上へもちあげ、毛糸を通します。
- 7 フタをセットして、輪あみの準備完了です。



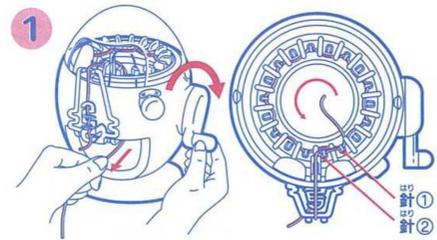
＊ 輪あみの編み方 ＊

◆ 輪あみの仕上がり ◆

編み地の直径約6cm 長さは自由

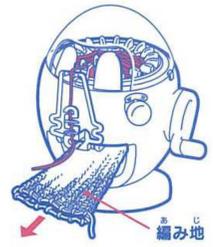


- 1 ハンドルをまわして編んでいきます。輪あみのときはいつも、時計まわりにまわしてください。最初の2周は中にたらしめた毛糸を軽く引っ張って、ハンドルをまわしてください。



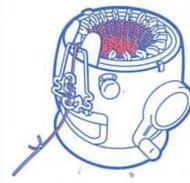
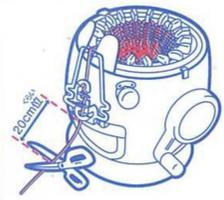
注意: ハンドルは乱暴にまわさないでネ!
: ハンドルはゆっくり一定の速さでまわしてネ!
: 本体を左手でしっかりと押さえて、右手でハンドルをまわします。
: ハンドルを戻したり反時計まわりにまわさないでください。

- 2 編み地が長くなってきたら手前に出しましょう。編み地のねじれはときどきなおしましょう。



編んでいる途中も、なるべく下から軽く引っ張るようにしましょう。(ハンドルを数回まわしたら、編み地を下から引っ張る...など。)

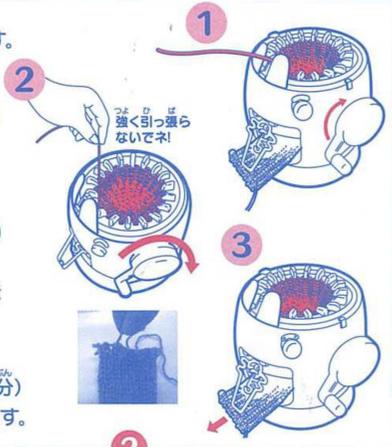
◆ 毛糸がなくなりそうになったり、色をかえたいときは… ◆



図のように毛糸を切り、新しい毛糸をむすびつけます。毛糸を結んだら、これまで通りハンドルをまわせば続きを編めます。

＊ 編み終わったら ＊

- 1 テンション糸口から毛糸をはずします。
- 2 毛糸をもって、ハンドルを時計まわりにまわし、1回転させます。
- 3 編みあがった作品は、本体の下の取り出し口からそとに取り出します。編み目がほどこけないように、注意しましょう。
- 4 編み終わりの毛糸をちょうど1段(1周分)ほどき、約20cmを残して毛糸を切ります。



もしも、毛糸が針からはずれないところがあつたら、セット内容の毛糸針ではずしましょう。



＊ 輪あみの編み終わり・編みはじめのしまつの仕方 ＊

＊ 輪あみの編み終わりのしまつの仕方 ＊

★注意：編み終わりの毛糸を強く引きすぎると、編み目がほどけますので、気をつけましょう。

◆しまつをしやすくするために…◆

編み終わりの毛糸を通しやすくするために、本体からはずした後に手で残り糸をゆっくり引っぱり、1段(1周)ほどいってください。
※毛糸をはさみで切るのは、1段ほどいた後約20cmのところまで切ってください。

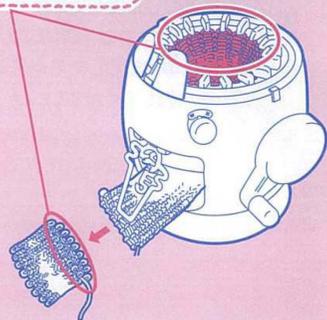


◆針に毛糸を通しやすくするために…◆

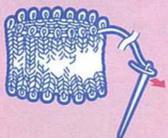
セット内の毛糸針に毛糸を通しやすくするために、毛糸の先にセロハンテープを1回巻いて針穴に通しましょう。
通したらセロハンテープははずしましょう。



◆編み終わり◆



- ①残り糸に毛糸針を通します。 ②輪になっている編み目に毛糸針を通します。 ③1周すべて毛糸針を通します。



しぼる場合



しぼらない場合



- 1 1周した後、残った毛糸をゆっくりと引っぱり穴をふさぎます。

- 2 残った毛糸のとなり2コ目の編み輪に毛糸針を入れます。



- 3 針を通して引っぱり、輪をつくりそこにまた針を通して結びます。



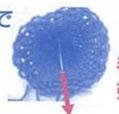
<残った毛糸をかくす場合>

- 4 てっぺんから毛糸針を内側に入れます。



- 5 内側から通した毛糸を引っ張ります。

※余分な毛糸は、はさみで切るか、中に入れます。



毛糸針を引っ張る

3

- 1 1周した後、最後の編み輪にもう一度針を通します。



- 2 毛糸針を引っ張り、輪をつくりそこにまた毛糸針を通して結びます。



＊ 輪あみの編みはじめのしまつの仕方 ＊

★注意：編み地に一周通す必要はありません。

しぼる場合

- 1 残った毛糸をゆっくりと引っぱり、穴をふさぎます。



- 2 残った毛糸のとなり2個の編み輪に毛糸針を入れます。



- 3 針を通して引っぱり、輪をつくりそこにまた針を通してむすびます。



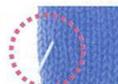
<残った毛糸をかくす場合>

- 4 てっぺんから毛糸針を内側に入れます。

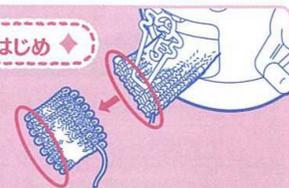


- 5 内側から通した毛糸を引っぱります。

※余分な毛糸ははさみで切るか、中に入れます。

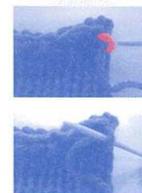


◆編みはじめ◆



しぼらない場合

- 1 最後の編み輪にもう一度、毛糸針を通します。



- 2 毛糸針を引っぱり、輪をつくりそこにまた毛糸針を通してむすびます。



＊ 平あみの編み方 ＊

◆平あみの仕上がり◆

編み地の直径約10cm 長さは自由



- 1 フタをはずして、ダイヤルを平あみ(H)に合わせます。

- 2 ハンドルを左(反時計まわり)に止まるまでまわします。

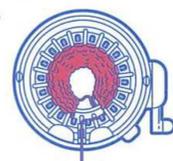
注意：無理をしてそれ以上まわすと、カチカチという音がかかりますが、これは安全装置がはたらいた音なので故障ではありません。

- 3 編む前にあき箱などにほぐしておいた毛糸を、1ページく毛糸をセットしましょう。手順を見てセットしましょう。(今度は時計まわりにハンドルをゆっくりまわします。)

- 4 平あみはハンドルが動かなくなったら、今度はハンドルを左(反時計まわり)にまわし、止まったらまた時計まわりにまわします。この作業をくり返します。
※一列目は内側にたらしした毛糸を軽く引っ張って編みましょう。

注意：ハンドルが止まるまでは反対方向にハンドルをまわさないでね。

- 5 ダイヤルを輪あみ(W)に合わせて、編み地をとりはずします。2ページの<編み終わったら>と同じ方法ではずしてね。



時計まわり
反時計まわり



交互に編んでいきます。

この毛糸を引き抜いてください。



4

＊ 平あみの編み終わり・編みはじめのしまつの仕方 ＊

＊ 平あみの編み終わりのしまつの仕方 ＊

★注意：編み終わりの毛糸を強く引きすぎると、編み目がほぐれますので、気をつけましょう。

① 編み終わりの毛糸を毛糸針に通し、輪になっているすべての編み目に、毛糸針を通します。

② 図のように毛糸の輪をつくり、毛糸針を通して結びます。

③ 毛糸が残ったら、編み地の中へ少しぬいこみ、残った毛糸は切りましょう。

＊ 平あみの編みはじめのしまつの仕方 ＊

① 編みはじめの毛糸を毛糸針に通します。

② 毛糸の輪をつくり、毛糸針を通して結びます。

③ 毛糸が残ったら、編み地の中へ少しぬいこみ、残った毛糸は切りましょう。

◆ 平あみで編んだ編み地を2つ折りにして両サイドをとじる処理法 ◆

① 毛糸針に毛糸を通し、図のように目を広げながらとじていきます。

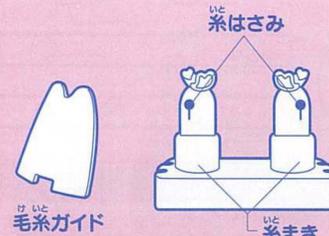


② 毛糸がつかないように引っ張りおとします。



＊ ポンポンのつくり方 ＊

◆ ポンポン糸巻 ◆



◆ ポンポンの大きさがえらべます ◆

糸まきをまわして、間隔を変えるとポンポンの大きさをえられます。

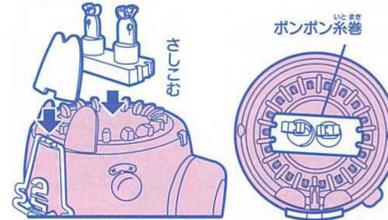
小 約5.5cmのポンポン

大 約6.5cmのポンポン



1 ポンポン糸巻をセットします

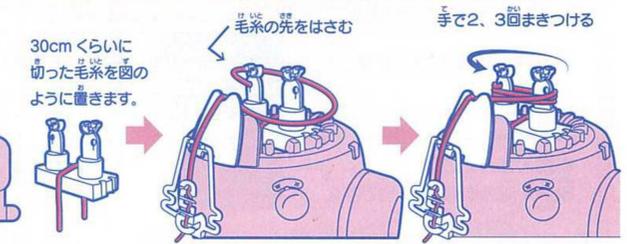
本体のフタをはずし、ダイヤルを輪あみにします。次にポンポン糸巻をシリンダーのツメの間にさしこみ、毛糸ガイドをとりつけます。



※ポンポン糸巻の上下を間違えないようにしてください。

2 毛糸をセットします

30cmくらいに切った毛糸を図のように置きます。毛糸の先を糸はさみの穴に入れ、下にさけて毛糸を固定したあと、手で2～3回巻き付けます。次に毛糸ガイドをとおしてテンションに毛糸をとおします。



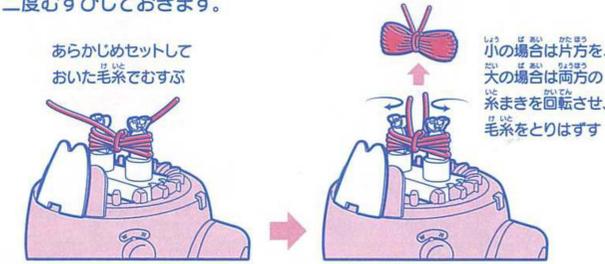
3 毛糸をまきつけます

ハンドルをぐるぐるまわして、ポンポン糸巻に毛糸を巻き付けていきます。適量の毛糸を巻き付けるには、ハンドルを50～100回くらいまわします。



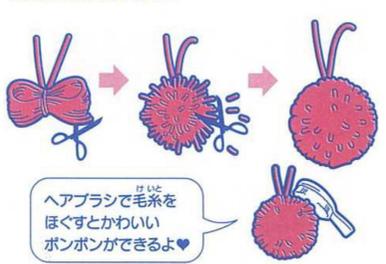
4 毛糸を結びます

2でセットしておいた毛糸で、巻き終わった毛糸のたばの中央を軽くむすび、糸まきを回転させてとりはずします。とりはずしてから、かたく二度むすびしておきます。



5 形を整えます

ハサミで毛糸のたばの両はしを切りひらいて球にしたら、作りたい大きさに毛糸をハサミで整えてできあがり!



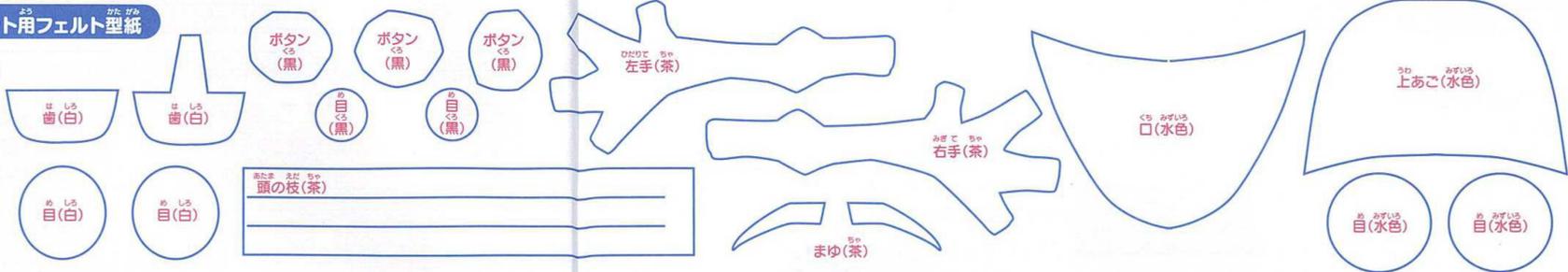
ヘアブラシで毛糸をほぐすとかわいいポンポンができるよ♡





オラフのみぐるみマスコット用フェルト型紙

セットに入っているフェルトを使い終わったら、この図面を別の紙に写しとったものを型紙として使用してください。はさみで切る際には十分注意してください。



* オラフのみぐるみマスコットのつくり方 *

用意する物

- ☆セット内...●毛糸(白・オレンジ) ●フェルト(セット内の目・手・口の中・歯・頭の枝・ボタン) ●綿 ●毛糸針
- ☆その他...●ボンド ●はさみ

◆段数を数えやすくするために◆

油性ペンで印をつけます。

くわしい説明は1ページ(◆油性ペンで印をつけよう◆)を読んでください。印が1周まわると1段です。



◆後処理をしやすくするために◆

編み終わりの毛糸を輪に通しやすくするために、つくり方に書かれている段数は1段多くになっています。各パーツ毎に本体で編み終わったら編み終わりを1段ほどしてから、後処理をしてください。※編み終わったら本体からはずして、1段ほどしてから約20cmのところをはさみで切ってください。※編みはじめは約20cmを本体中央にたらしってください。

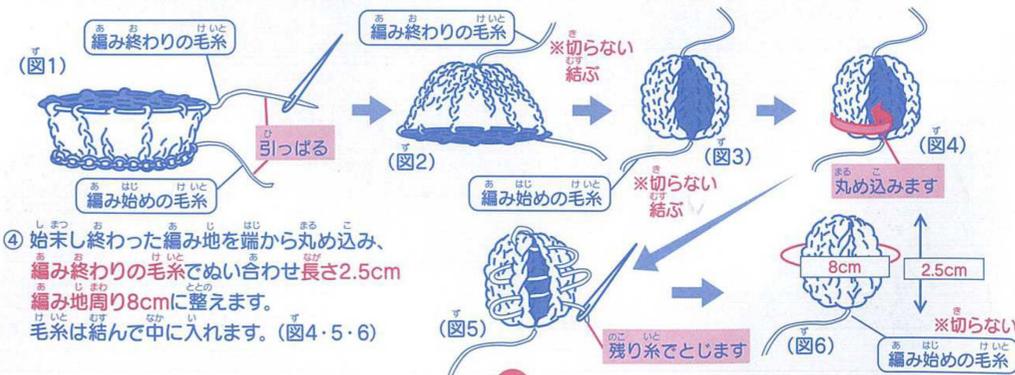
※セットした毛糸は段数に含まれません。

※指定がない残り糸は結んで編み地の中に入れるか、縫い込みます。

1 オラフのからだの各部分をつくります

●足を2個作ります ●(白の毛糸・毛糸針/輪あみ)

- ①ダイヤルを輪あみにして6段編みます。編み地を本体からはずして、1段ほどきます。
- ②3ページの「輪あみの編み終わり(しぼる場合①②③)」まで始末し、毛糸は切りません。(図1・2)
- ③編みはじめの残り糸も引っぱってしぼります。毛糸は結んで切りません。(図3)

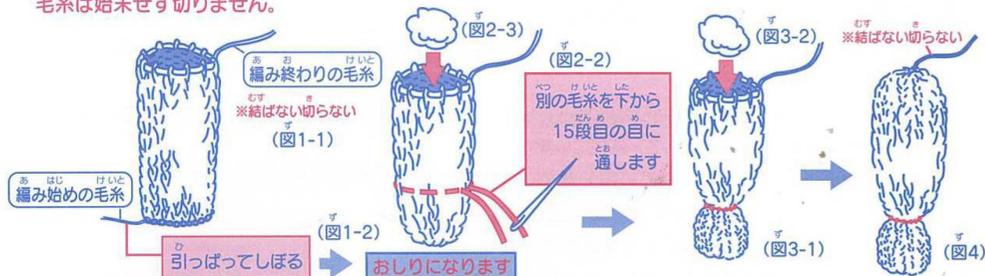


- ④始末し終わった編み地を端から丸め込み、編み終わりの毛糸でめい合わせ長さ2.5cm編み地周囲8cmに整えます。毛糸は結んで中に入れます。(図4・5・6)

7

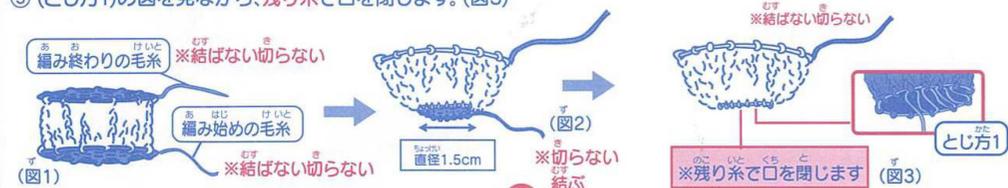
●頭と胴体(つながったもの)を1個作ります ●(白の毛糸・綿・毛糸針/輪あみ)

- ①ダイヤルを輪あみにして33段編みます。
 - ②編み地を本体からはずして1段ほどき、3ページの「輪あみの編み終わりのしまつの仕方」で輪になっている編み目に1周通します。残り糸はしぼらず切りません。(図1-1)
 - ③編み始めの毛糸は「しぼる場合①~⑤」の方法でしまつします。おしりになります。(図1-2)
 - ④下から15段目の編み目に1周別の白い糸を通します。(図2-2)結ばないで、次におしりの部分に綿をつめます。(図2-3)
 - ⑤(図3-1)のように綿をつめたら、編み目に通した毛糸を引っ張ってしぼります。結んで残り糸は中に入れます。体の下の部分の出来上がりです。
 - ⑥次に顔になる部分にも綿をつめます。(図3-2)
- (図4)のようになるように形を整えたら、残しておいた編みおわりの毛糸を引っ張ってしぼります。毛糸は始末せず切りません。



●上あごを1個作ります ●(白の毛糸・毛糸針/輪あみ)

- ①ダイヤルを輪あみにして9段編みます。
- ②編み地を本体からはずして1段ほどき、3ページの「輪あみの編み終わりのしまつの仕方」で、残り糸を輪になっている編み目に1周通します。毛糸は結ばず切りません。
- ③編み始め・編み終わりの毛糸を少しずつ引っ張って、四角い編み地になるように整えます。毛糸は結ばず切りません。(図1)
- ④次に編み始めの残り糸を口の大きさが直径1.5cmになるように引っぱります。毛糸は結びます。(図2)
- ⑤(とじ方1)の図を見ながら、残り糸で口を閉じます。(図3)



8

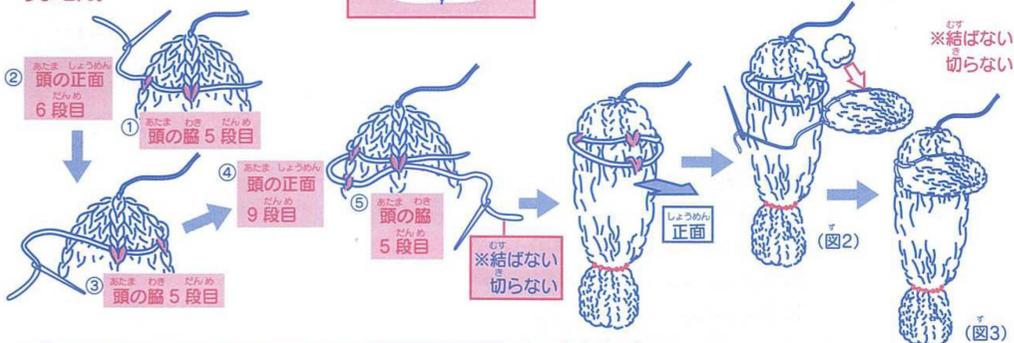
● 上あごの付け位置・付け方 ●

● (白の毛糸・綿・毛糸針)

上あごを顔に取り付けやすいように、顔の両脇と正面の編み目に別の白い毛糸を通して上あごの取り付け位置の印を(図1)の①②③④⑤の順に付けます。印用の白い毛糸は結ばず切りません。



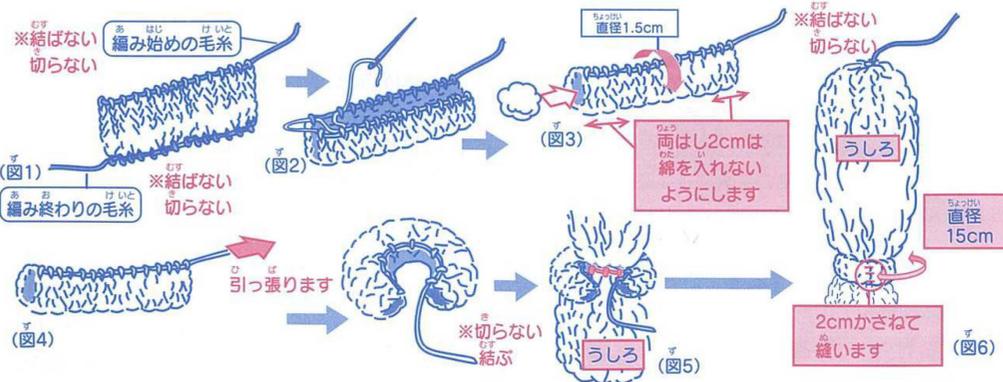
- ⑥ 上あごに綿を入れて形を整えながら付け位置に沿って残り糸で縫い付けます。(図2) 残り糸は結んで中へ入れます。(図3)
- ⑦ 縫い付け終わった時に上あごからはみ出ている、印用に付けた白い毛糸があったら本体の中へ入れるか、おうちにあるはさみで切り形を整えます。



● 体の上の部分を作る ●

● (白の毛糸・綿・毛糸針/平あみ)

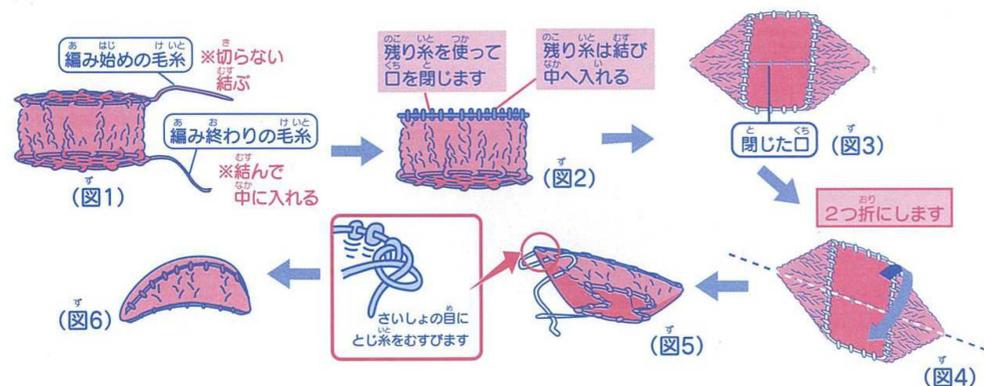
- ① ダイヤルを平あみにして9段編みます。
- ② 編み地を本体からはずして1段ほどき、5ページの平あみの「平あみの編み終わりのしまつの仕方」で、残り糸を輪になっている編み目に通します。毛糸は結ばず切りません。
- ③ 編み地が四角くなるように編み始めと編み終わりの毛糸を少しずつ引っ張って形を整えます。残り糸は結ばず切りません。(図1)
- ④ 編み地を(図2)のように2つ折りにして残り糸を使って5ページの(◆平あみで編んだ編み地を2つ折りにして両サイドをとじる処理法◆)の方法として、筒状にします。
- ⑤ 筒に綿をつめて、直径約1.5cmになるように整えます(※両端2cmには綿を入れません。)(図3)
- ⑥ 残り糸を引っぱりドーナツ型に整えます。毛糸は結んで、切りません。(図4)
- ⑦ 本体に(図5)のようにドーナツ型の編み地を巻き付けます。
- ⑧ できあがり直径約15cmになるようにドーナツの両端を約2cm重ね合わせて残り糸で縫い合わせます。(図6)



● 鼻のつくり方 ●

● (オレンジの毛糸・毛糸針/輪あみ)

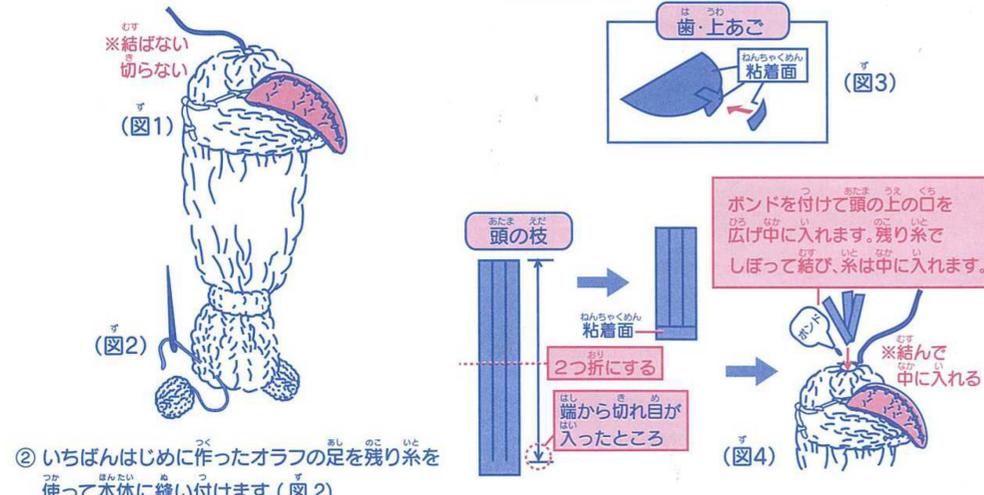
- ① ダイヤルを輪あみにして6段編みます。
- ② 編み地を本体からはずして1段ほどき、3ページの「編み終わりのしまつの仕方」で、残り糸を輪になっている編み目に一周通します。毛糸は結ばず切りません。
- ③ まず編み始め・編み終わりの毛糸を少しずつ引っ張って、四角い編み地になるように整えます。編み始めの毛糸は結んで中に入れます。編み終わりの毛糸は結んで切りません。(図1)
- ④ 編み終わりの残り糸を使って編み地の口を閉じます。残り糸は結んで中へ入れます。(図2)
- ⑤ 閉じ終わった口を下にしてたたみます。(図3)
- ⑥ (図4)の方向に2つ折りにし、別の毛糸30cmを最初の目に結び閉じます。(図5)
- ⑦ 両端がとがったはなができます。(図6)

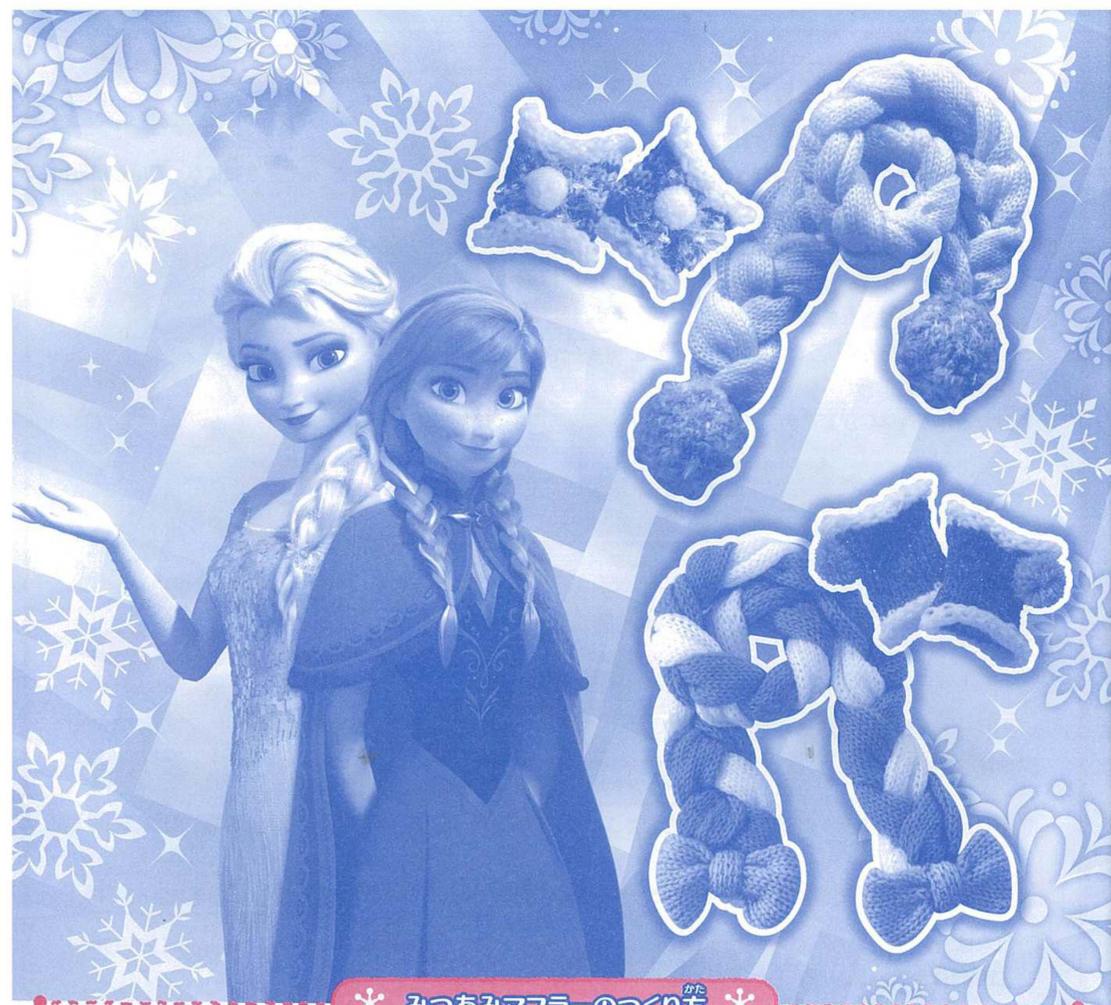


● 2 オラフを組み立てます (フェルトはパッケージの写真をしながら貼り付けます。)

● (フェルト各色・毛糸針・ボンド)

- ① はなは、とがった方が下に向くように上あごに縫い付けます。(図1)
- ★ 歯・上あごの枝は(図3・4)のように順番に貼り付け(取り付け)ます。





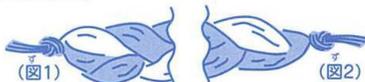
＊ みつあみマフラーの作り方 ＊

用意する物

☆マフラー用 ●市販の毛糸(並細3玉(アナ:オフホワイト1、茶2 エルサ:オフホワイト3))
 ☆かざり用 ●市販の毛糸(並太(アナ:薄紫 エルサ:水色)) ●毛糸針 ●はさみ

● みつあみマフラー本体を作ります (市販の毛糸3個/輪あみ)

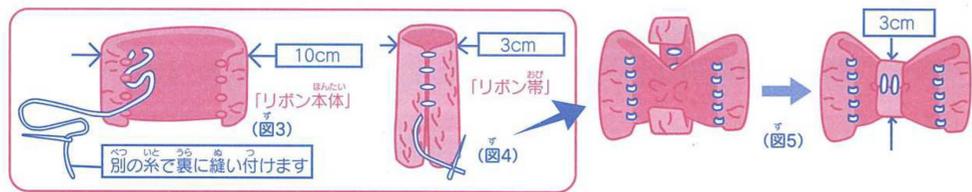
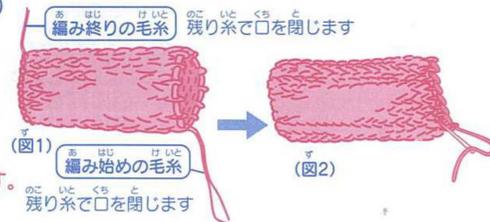
- ① ダイヤルを輪あみにして1玉分(約25グラム)の編み地を3本編みます。
- ② 編み地を本体からはずして1段ほどき、3ページの「編み終わりのしまつの仕方」で、残り糸を輪になっている編み目に1周通します。3ページの「輪あみの編み終わりのしまつの仕方(しぼる場合①②③)」まで始末し、残り糸は結んで切りません。
- ③ 3本の編み地の残り糸を、できるだけ編み地の近くでまとめて結びます。(図1)
- ④ 結び目を固定して、三つ編みを作ります。
- ⑤ 編み終わりの端の残り糸もまとめて結びます。(図2)



● みつあみマフラーのかざりを2個作ります ●

◆ アナのみつあみマフラーのかざり ◆ (市販の毛糸/輪あみ)

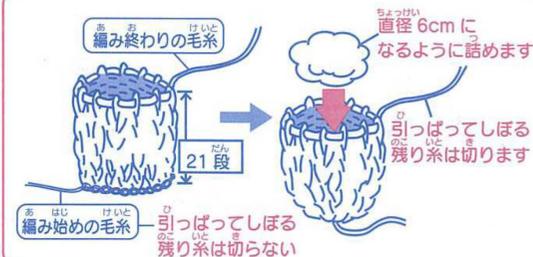
- ① リボンの本体を作ります。ダイヤルを輪あみにして29段編みます。
- ② 編み地を本体からはずして1段ほどき、3ページの「編み終わりのしまつの仕方」で、残り糸を輪になっている編み目に1周通します。編み始め・編み終わりの毛糸を少しずつ引っ張って、四角い編み地になるように整えます。それぞれ残り毛糸は結ばず切りません。(図1)
- ③ 残り糸を使って編み地の両端の口を閉じます。毛糸は結んで中に入れます。(図2)
- ④ (図3)のように10cmになるように、編み地の両端を裏側へたたみ、別の毛糸で縫い付けます。縫い終わったら毛糸は結び、編み地の中へ入れます。残り糸で口を閉じます
- ⑤ 次にリボンの帯の部分を作ります。リボン本体の作り方と同じ方法で口を閉じた四角い編み地を作ります。
- ⑥ (図4)のように3つ折にして、別の毛糸で縫い合わせます。
- ⑦ リボン本体の中央をリボン帯で巻き、しぼってリボンの形に整えて帯の端を縫い合わせます。(図5)
- ⑧ 別の毛糸を使ってマフラー本体に取り付けます。



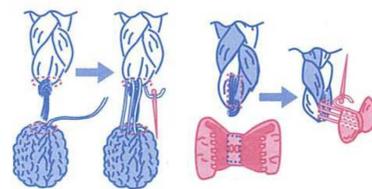
◆ エルサのみつあみマフラーのかざり ◆

(市販の毛糸/輪あみ)

※市販の毛糸を輪あみで21段編み、3ページの「編み終わりのしまつの仕方」でしまつします。直径6cmになるように綿をつめ、編み始めの残り糸をしぼってボールを作ります。残り糸を使ってマフラー本体に取り付けます。



● かざりを取り付けます ●



マフラーのかざりはそれぞれ点線に沿うように縫い付けます。三つ編みのマフラーの先の結び糸は縫い合わせるときマフラー本体とかざりに挟み込むようにします。

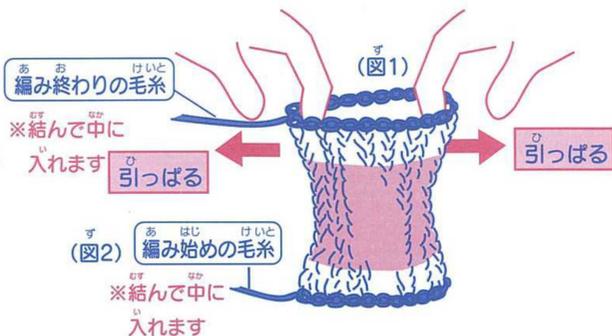
＊ アームウォーマーのつくり方 ＊

用意する物

- ☆アームウォーマー用 ●市販の毛糸(並太(アナ風:白、赤紫 / エルサ風:白、ブルー))
 ☆かざり用 ●市販の毛糸(太さ自由(アナ風:ピンク / エルサ風:キラキラ)) ●毛糸針 ●はさみ

● アームウォーマー本体を作ります ● (市販の毛糸/輪あみ)

- ① ダイヤルを輪あみにして白の毛糸で7段編みます。
- ② 次に好みの色の毛糸で14段編みます。
 (※毛糸を変えるタイミングは右の図「毛糸の色を変えるタイミング(P14)」を参照)
- ③ 最後に白の毛糸で8段編みます。
- ④ 編み地を本体からはずして1段ほどき、3ページの「編み終わりのしまつの仕方」で、残り糸を輪になっている編み目に1周通します。毛糸は結ばず切りません。
- ⑤ 毛糸を通したら、毛糸を通した口を(図1)のように左右に広げます。広がったままの状態に残り毛糸を結び、編み地の中へ入れます。
- ⑥ 編み始めの残り糸は、そのままのゆるんだ状態で結び編み地に入れます。(図2)



● 2種のかざりを作ります ● (市販の毛糸/ポンポン糸巻き)

◆ アナ風かざり ◆

- ポンポン糸巻きでポンポンを2つ作ります。中心を結んだ毛糸は切らずに残し、その糸で本体に取り付けます。

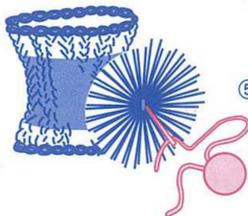


◆ エルサ風かざり ◆

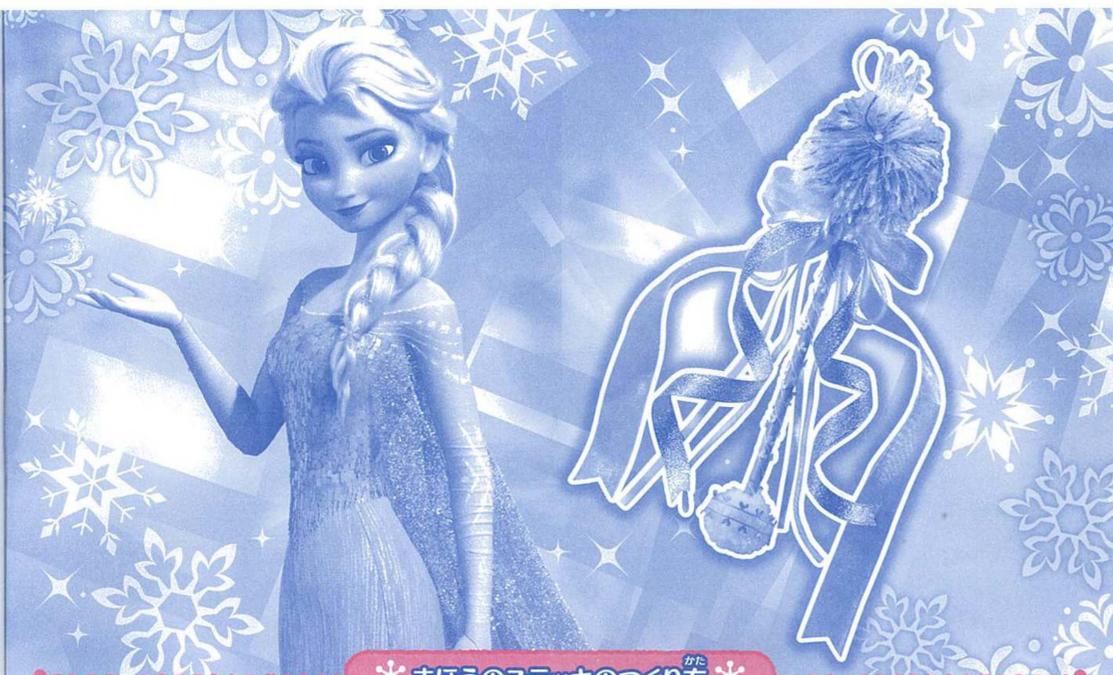
- ポンポン糸巻きを使い(図①②③)の手順でかざりを作ります。



- ① ポンポン糸巻きに巻いた毛糸の片方だけ結びます
- ② 結んだ反対側を切ります。
- ③ 結んだ毛糸を中心に広げます。



- ④ ポンポンをもう1つ作り、中心をしぼった毛糸を残します。
- ⑤ 残り糸を使って①～③で作ったかざりの中心を本体にぬい付けます。



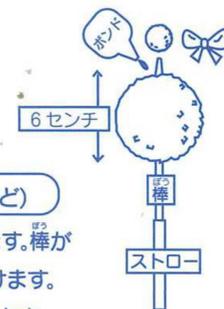
＊ まほうのステッキのつくり方 ＊

用意する物

- 市販の毛糸(太さ自由) ●リボン ●直径5ミリの棒状のもの(お箸など) ●ストロー ●バンド ●はさみ

● ポンポンを1個作ります(市販の毛糸/ポンポン糸巻き)

- ① 市販の毛糸で直径約6cmのポンポンを作ります。色や質感の種類がちがう毛糸を2～4種類まぜます。
 ※ポンポン糸巻きに、太めの毛糸なら約50回、細めなら100回巻きます。



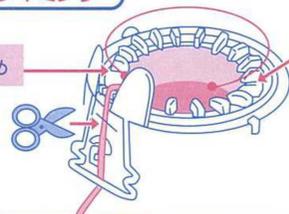
● ステッキを作ります(直径約5mmの棒状のもの(お箸など)・ストロー・リボンなど)

- ① ポンポンの中心に、棒状のものを棒の先がポンポンの上から少し出るまでさします。棒がポンポンから抜けないように、棒の先にかざりや小さいポンポンをバンドで付けます。
- ③ カラフルなストローを棒に通したり、リボンや小さいポンポンなどでかざり付けます。

毛糸の色を変えるタイミング

さいごの段のあみ始め

ハサミで切った次の色の毛糸を結びます



さいごの段の残り3目のいち

1色目のさいごの段が残り3目のとき毛糸を変えます。毛糸を切る位置は図のとおりです。
 ※毛糸の結び方は2ページ(◆毛糸がなくなりそうになったり、色をかえたいときは…◆)を見てください。